

## 研究活動報告

### アジア人口学会2012年大会

第2回アジア人口学会大会 (The 2<sup>nd</sup> Asian Population Association Conference) が2012年8月26日～29日にかけてタイ王国の首都バンコクで開催された。インドのニューデリーで2010年に開催された第1回大会に続く本大会では、最新の人口学的データと人口学的分析に基づく社会経済活動と人口変動の相互作用的性格 (the interrelated character of social, economic and demographic trends, drawing on the latest demographic data and analysis to examine specific issues of change) の解明が共通の主眼とされた。

まず、学会大会開催に先立つ8月23日～25日には3つのセミナーとワークショップが開催された。研究報告が行われた3日間については、17に大別された多岐にわたる各テーマ (「データの質と利用可能性」, 「出生力」, 「世帯・結婚・家族」, 「成人及び乳幼児の健康・傷病・死亡」, 「国内人口移動と都市化」, 「高齢化と世代間関係」, 「リプロダクティブヘルス」, 「国際人口移動」, 「難民」, 「アジアにおけるライフコース」, 「貧困と開発」, 「人口と教育」, 「労働力・雇用」, 「ジェンダー」, 「環境・気候変動と人口」, 「人口政策」) について、合計100のセッション (約400の口頭報告) と約300のポスター報告が行われた。また、27日と28日にはそれぞれ「アジアの出生力はどこまで下がるのか」及び「アジア人口の移動」と題された2つのパネルディスカッションがあった。50カ国以上の大学・研究機関、国際機関、政府機関、NGO等から600名を超える参加があり、当研究所からは金子隆一 (副所長)、岩澤美帆 (人口動向研究部第1室長)、鎌田健司 (人口動向研究部第1室研究員)、菅桂太 (人口構造研究部第3室研究員) が参加し、それぞれが研究報告を行った。

(菅桂太・鎌田健司記)

### 日本人口学会2012年度第1回東日本地域部会

日本人口学会の2012年度第1回東日本部会は、2012年9月1日 (土) 午後、原俊彦・札幌市立大学教授の企画・運営のもとで、同大学サテライトキャンパスで開催された。すべての報告に対し活発な質疑応答が交わされ、盛況で有意義な研究報告会となった。報告者および報告タイトルは次の通りである。

1. 林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)  
「人口減少社会の都市化と人口移動～ハバロフスクと札幌の比較から」
2. 菅 桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)  
「シンガポールにおける出生力変動の民族格差」
3. 鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)  
「東アジアの独居老人—日本・韓国・台湾の比較—」
4. 山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)  
「地域別将来人口推計における出生指標に関する検討—都道府県を単位としたCWRとTFRの比較—」